



〈東区〉2017.1

しのだ江里子市政だより

札幌市議会
民進党・市民連合

〒060-0001
札幌市中央区北1条西2丁目札幌市役所17F
TEL(011)211-3212 FAX(011)218-5121

No.29



ゆるぎない想いささえあいの東区

新しい2017年が始まりました。皆さまには平安に良き年をお迎えのことと思います。

例年より早い訪れで始まった今冬、12月としては29年振りの大雪に戸惑い、雪かきに追われ、腰痛や肩こりに悩まされたり、ツルツル路面に冷や汗もののひと月でした。

地球は温暖化と言われますが、気候変動が激しく、それも人間社会によるツケなのではと思う今日この頃です。年間6mにもなる降雪量、雪はドカンと降れば困りものですが、雪が降るからこそ都市の喧騒が吸収され静寂が広がり、潤沢で美味しい水が豊富に天から与えられるものでもあります。先日、札幌市は「一番住んでみたい街」一位に選ばれました。

名実共に住みやすい街を今年も目指してまいりましょう。

議会では11月30日から12月13日まで第四定例会が開催され、2016年度補正予算や「がん対策推進プラン」、意見書などの審議が行われました。

また2017年度予算編成に向けた作業が進み、2月21日開催の第一回定例会、予算特別委員会に向けた活動が本格的に進んでおります。

2月1日には恒例の雪まつりがつど一む会場からスタートし、12日まで開催され多くの観光客を集めます。2月19日からは冬季アジア大会がいよいよ始まり、1972年の札幌冬季オリンピックをしのぐ2千人を超えるアジアの国と地域を代表する選手・役員が参加し、白熱の戦いが連日繰り広げられます。あつい応援をお願いいたします。

今年も市民の代弁者として、皆さまの声をしっかり市政につなげてまいります。



第四定例議会代表質問(2016.12.05) <アスベスト対策について>

煙突の定期的な点検、チェックの仕組み札幌市は10月に起きた煙突内のアスベストを含んだ断熱材の落下事例を受け、緊急点検を実施し、断熱材の落下が確認された43施設については順次、煙突の補修工事などの対応をしていますが、今後も断熱材が劣化することで、同様に落下事故が想定されます。この問題を2度と繰り返さ

ないための措置を全庁的に取り組んでいくことが必要です。

Q：1,600を超える多くの市有施設の煙突で、アスベストを含む断熱材が破損・落下し、ボイラー等の使用停止など学校や施設の利用に支障を来すことのないよう、定期的な点検、チェックの仕組みが必要と考えますが？

A：緊急点検の結果、アスベストを含んだ断熱材の落下が判明した煙突の補修など早急に対応しています。同様の事態を繰り返さないよう、事前に把握に、剥離する前に補修を行うための予防的な点検の仕組みが必要であり、全庁ルールを今年度中に策定し周知します。

また、徹底したアスベスト対策を推進し、市民の安全・安心の確保に努めます。

市教育委員会は、給食費一人当たり1,700円を簡易給食や弁当持参となった児童生徒12,867人に返還することになり、2月分の給食費から差し引きます。
学校ボイラーは1月下旬までには再稼働されます。

<高齢者施策について> 篠田作成!

(1)介護保険における情報公開について

札幌市では2015年度には、介護サービスを利用している市民などから、延べ334件の苦情・相談が寄せられています。しかし、札幌市では苦情や相談内容などは公表しておらず、利用者の実態や対処方法などを知りたい市民への情報公開が不十分ではないかと考えます。

これらの情報を透明化し、その内容を公開し共有することは、事業所が提供するサービスの質の維持・向上に活かすことができ、また利用者にとっても満足できるサービスを受けることにつながるものと考えます。

Q：介護保険に関する苦情・相談の重要性と、内容などを公開すべきでは？

A：利用者の保護と介護サービスの質の確保を図るうえで非常に重要と認識している。
今後は、事業者に対して説明会などで苦情内容の周知を図るとともに市民に向けては

HP等内容手法等について検討していきます。

(2)高齢者のボランティア参加促進について

2013年10月より「介護サポートポイント事業」を実施しています。この事業は、所定の研修を受けた65歳以上の方が、登録された介護保険施設で行うボランティア活動に対しポイントを付与し、希望者にはポイントに応じた現金を交付するものです。

現在、事業開始から3年が経過し、参加登録者数は1,300名を越え市民への浸透が少しずつ進んでいます。しかし、実際に介護保険施設で活動しているのは、登録者の半数程度となっており、今後はしっかりと現状を分析し、事業効果の増進を図り、高齢者のボランティア参加を拡大していくことが重要と考えます。

Q：高齢者のボランティア参加促進には、介護サポートポイント事業は期待ができる手段の一つですが、3年が経過した本事業の現状と、今後の取組の方向性についてはいかがか？

A：市民への浸透が進んできたが、「活動する施設が近所がない」との声も多い。受入施設を特別養護老人ホーム、老人保健施設関連以外の介護施設にも広げることを検討します。

(3)子育て支援での高齢者ボランティア参加

高齢者による子育て支援のボランティア活動は、子育て世代の不安や負担感の軽減と高齢者自身の介護予防に加え、地域社会での世代間の相互理解や、互助・共助の風土の醸成にも繋がるなど、超高齢社会の様々な困難を、多方面から緩和の効果が期待され、促進は、どの世代からも受け入れられる取組と考えます。

Q：地域活動、ボランティア活動に取り組む高齢者が2割に留まっています。社会への浸透を進め子育て支援分野での高齢者ボランティアの活躍を促進すべきでは？

A：子育て支援分野での高齢者活動は、社会的に受け入れられやすく、世代間の相互理解などを後押しする効果も期待できます。
高齢者の社会参加を促進するための施策を総合的に検討していきます。



厚生常任委員会質問(2016.12.09)
<札幌市がん対策推進プラン>

(1)がん検診受診率の向上

札幌市では、がんは1976年(昭和51年)から市民の死因の第一位であり、全国比でも、75歳未満がん年齢調整死亡率は約1割高く、特に肺がんによる死亡率は高く、大きな課題です。

全国では男女とも低下傾向にあるのに、札幌市では、男性は全国同様低下傾向、一方で女性は横ばいまたは増加傾向にあり、原因には20政令市で一番喫煙率が高く、女性の喫煙率は全国との比率差が大きいことが指摘されています。昨年12月事業所向けがん対策アンケートでは、約3割の事業所、特に中小の事業所ががん検診を未実施。

Q: 働く世代に向けた職域によるがん検診の実施を促進すべきでは? また、がん検診に対する市民の関心や意識を高め、受診率向上に結びつけるための取組は?

A: 未実施の事業所に対し、定期健診にがん検診を付加するよう、協会けんぽや経済団体等と連携し、普及啓発していきます。地域で活動の食生活改善推進員が、がん予防につながる減塩や野菜の摂取、適正体重について普及啓発を行っているので、併せてがん検診の受診についても啓発していただくことを考えています。

(2)女性のがん対策は重要

特に若い世代で増加の子宮頸がんは、これから結婚や出産を迎える年代の女性の妊娠や出産の可能性、健やかな日常生活を奪うがんと言えます。子宮頸がんの検診受診率は、特に20代の検診受診率が低く、若い世代は、がんを含めた健康に対する意識は他の世代と比べて高くない。

Q: 若い世代が関心を高めるためにどのような取組を進めるのか?

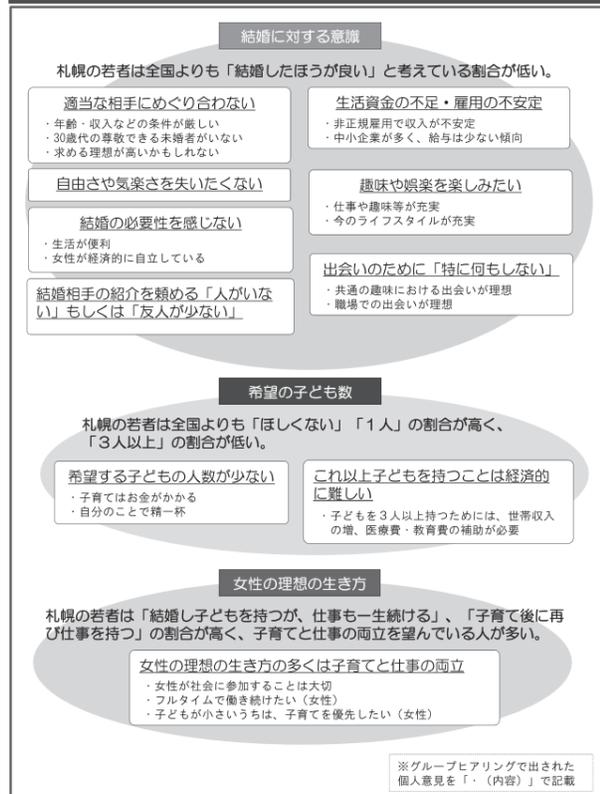
A: 大学生がメンバーの子宮頸がん予防プロジェクトを進めており、企業や大学と連携し、若い世代への子宮頸がん予防に関する知識の普及や、検診の受診定着を図る取組を行っている。

動画を作成しユーチューブで配信し、ライブイベントの開催やツイッターの開設などを通じ、正しい知識の普及啓発を実施、ランチ検診マップの作成など、意識を高めています。

大都市税財政制度・人口減少対策調査特別委員会(2016.12.13)

<札幌市の出生率に係る意識調査>

3 アンケート調査及びグループヒアリングから伺える札幌の若者の考え方



1.アンケート調査の概要

2016年1月に策定された「さっぽろ未来創生プラン」は札幌市の合計特殊出生率(2015確定1.18)が低位にある要因に「高い未婚率」「夫婦間の出産数の少なさ」があるとしている。

これらの要因について、20歳代、30歳代の若い世代が、結婚や子どもを持つことについてどのような意識を持っているかをアンケート、ヒアリングにより調査・分析し、更に2015年3月に内閣府が公表した「結婚・家族形成に関する意識調査」と比較した。

2.アンケート結果

- ①婚姻状況については、男性は雇用形態によって大きな差が生じており、正規雇用者は約7割だが、非正規雇用者は3割未満。
- ②結婚観は「結婚した方が良い」と考える人が全国に比べても少なく、男性は雇用形態によって差が生じる。正規6割、非正規3割。
- ③結婚していない理由は「適当な相手にめぐりあわない」が高い。
- ④恋人との交際状況では、30歳代男性の約8割、30歳代女性の6割が「交際している人いない」
- ⑤結婚相手に巡り合う可能性は男女とも低く、男性の雇用形態で差が大きい。
- ⑥結婚相手の紹介を頼める人では、「特にいない」が最も多く全国比20%も高く、「友人」は20%低い。
- ⑦希望の子ども数では、「3人以上」が低く、「ほしくない」、「一人」が高い。
- ⑧子どもが欲しくない理由では、「経済的に難しい」が全国を上回っている。
- ⑨女性の理想の生き方「子育て後に再び仕事を持つ」、「結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける」割合が高く、子育てと仕事の両立を望んでいる。

札幌に住む若者たちが、安心して家庭を持ち、子どもを産み育てるには、何より安定した雇用と安心して子供を預けられる保育環境、地域のサポートが求められます。
 子どもの笑顔があふれる街を目指しましょう!

《しのだ江里子のつれづれ日記》



さくらんぼ交流会(12.12)



連合街宣(12.5)



えほん図書館(11.8)



市政報告回(11.24)



札幌黄マラソン(10.23)



決算特別委員会(10.14)



さっぽろ村ラジオ(10.7)



白川自然園学習会(9.25)

皆様のご意見をお寄せください

しのだ江里子事務所

〒065-0024 札幌市東区北24条東16丁目1-7
 グローバリビル2F(元町駅1番となり)
 Tel:011-784-1086 Fax:011-792-0081
 E-mail:eriko1950@beige.plala.or.jp
 URL:http://www.shinoda-eriko.com

“しのだ江里子のつれづれ日記”
 毎週金曜日 午前10時から30分間放送中
 (コミュニティFMさっぽろ村ラジオ 81.3MHz)
 (インターネット放送局 ニューゾーンFM)